JISPA NEWS

輸入車整備の情報誌

〈発行所〉一般社団法人 日本輸入車整備推進協会

TAKE FREE!
Vol. 08
2022年 9月

安心して輸入車に乗る。

TOPICS & VIEW

〈巻頭特集〉輸入車整備初級研修を開催
輸入車整備に携わる人材育成のために

整備の現場から生の声をお届け **匠 VOICE!**

古き良き名車を愛でる #008
Mercedes-Benz W126

会員工場訪問記 **大平自動車**

気になる自動車業界の先を詠む
自動車業界のNEWSな話題

意外と知らない?クルマの豆知識
エンジンオイルの話

［JISPA会員紹介］
シンコーオート商会（愛媛県新居浜市）

輸入車修理のベストパートナー
一般社団法人 日本輸入車整備推進協会

撮影協力：JISPA 初級研修

〈巻頭特集〉輸入車整備初級研修を開催

輸入車整備に携わる人材育成のために。

2022年7月20日（水）、千葉県印西市にある三井住友海上千葉研修所にて「輸入車整備の実務セミナー（初級編）」が、三井住友海上グループのエーシー企画と一般社団法人日本輸入車整備推進協会（JISPA）の共催で行われた。本セミナーの目的は2つ、一つは輸入車整備を行う工場（仲間）を増やし、全国各地の輸入車整備難民を救うこと。もう一つは、すでに輸入車整備を行なっている工場の人材育成をし、輸入車に強いメカニックを育てることである。コロナ禍での開催となった今回は例年より少数の募集となり、受講者はJISPA会員5名、それ以外が2名の参加となった。

冒頭、JISPAの平林代表理事より「JISPAの目指す輸入車整備」について説明があった。代表理事は整備業界の現状について「ここ20年ぐらいで修理主体の整備工場が車検ビジネスに移行するようになった、この車検偏重により“直すことを忘れた修理屋”になってしまっている」と警鐘を鳴らす。台数を追って短時間で作業を済ませる薄利多売の方法を継続するのにも限界がきているのは、近年の国内ディーラーによる不正車検の例を見ても明らかである。一方で「修理ができない工場が増えたことで多くなったのが輸入車整備難民であり、保証期間を終えた輸入車オーナーは適正な

価格で修理、整備を任せられる工場を探している」という。特にディーラーのない地方部においては切実な問題だという話をよく聞く。このような背景からJISPAでは輸入車整備を行う整備士の育成に力を入れており、同時に各県に最低１工場（全国100工場）の輸入車整備工場のネットワーク化を進めている。

さて本題のセミナーに関してだが、JISPAでは“実務”セミナーを大切にしている。セミナーは1泊２日で初日の午前中以外はほとんど実習形式で、現場のメカニックが実車を使い診断機を繋ぎセミナーを行う。診断機に関しても広く輸入車に対応しているBosch社のものとAUTEL社のもの、２メーカーの診断機を並べセミナー期間中はみっちりと診断機に触れて貰う。このような実践的なセミナーを行なっているのは恐らく国内ではJISPAだけだと自負している。なぜこのような実務セミナーを行うのかというと、輸入車と国産車の整備の違いを理解して貰うためである。輸入車と国産車では異なることも多く、電子系統・電気系統のシステムが国産車に比べると独特であったり、室内装備では各種スイッチやレバーの位置が違っていたり、ブランドごとに規格が異なり特有の装備があったりする。さらに輸入車の各ブランドにはこだわりがあり、一般の整備工場には修理に必要なマニュアル等が開示されておらず、輸入車と国産車の違いを理解するには、実際に触れて経験することが重要だと考える。そのうえで本セミナーを受講したメカニックには、輸入車も国産車も自動車には違いがないのだから、各ブランドの特徴や仕様さえ覚えてしまえば“輸入車整備はできる”と感じて帰って貰うことを意識している。

初日の午前中は座学で「輸入車整備の実務（初級編）」を学んだ

実習は講師1人に対して受講者3～4人と、少人数で実践的な講義を行った

輸入車整備・修理はお客様に喜ばれるやりがいのある仕事だ。整備・修理を終えたお客様から感謝のお言葉や菓子折りを頂くケースも少なくない。決して安くないご請求にも関わらずである。つまり、愛車の整備・修理に困っている人は多くいて、その人達は自分の愛車を任せられる整備工場を探しているということだ。JISPAはそういう方々の受け皿となれるよう、今後も活動を続けていきたい。

JISPA 活動報告

2022年度 通常総会を開催

2022年7月27日（水）@TKPガーデンシティお茶の水

2019年以来3年振りのリアル開催となったJISPA通常総会が、TKPガーデンシティお茶の水で開催された。平林代表理事による挨拶で開会した本会は、来賓である三井住友海上火災保険株式会社 営業推進部 モーターチャネル推進チーム長 橋本泰佳氏にご挨拶をいただいた後、総会議事へと進んだ。

2021年度の報告では、JISPA正会員の推移について6会員増え合計55社となった旨を報告、今年度はプラス8会員、合計63会員を目標に入会促進を行うことに言及。また、技術セミナー上級編の開発やテクニカル・アドバイザーの高度化、輸入車整備工場運営マニュアルの作成など2022年度の課題（事業計画）についても触れられた。

休憩を挟み行われた基調講演には、「サイバーセキュリティ法規と自動車整備業界」という題目でボッシュ株式会社オートモーティブアフターマーケット事業部 テクニカルサービス＆サポート部 ゼネラルマネージャー 里廉太郎氏に、さらに「私の輸入車整備人生」と題しメルセデス・ベンツ（シュテルン店）アドバイザー 雑賀弘行氏に登壇いただき、今後の輸入車整備の動向についてお話しいただいた。

整備の現場から生の声をお届け

匠 VOICE!

平均車齢が8～12年と、輸入車を長く大切に乗り続けるオーナー達から、
“整備や修理を安心して任せられる工場”を求める声が広がっている。
このコーナーでは、JISPA会員工場に入庫した整備事例の中から、
輸入車オーナーにとって興味深く、目からウロコな“生の声”をお届けしよう。

整備事例#011 RENAULT MEGANE RS

マウント破損でミッション脱落!!

平成24年式、6.6万km走行のルノーメガーヌ。走行中にミッションマウントのボルトが折れてミッションが脱落。その際に、左ドライブシャフトのインナージョイントが抜け走行不能に。脱落したミッションは、メンバーの上に乗っかっていました。左ドライブシャフトのインナージョイントがブーツ内部で抜け空転したため、ブーツが

よじれてグリスが飛び散っていました。

ネットで調べてみると、ミッションマウントのボルトが折れミッションが脱落するのはメガーヌの定番の不具合のようですが、ドライブシャフトのジョイントが抜けたというケースは見つけられませんでした。おそらく、ローダウンしているために、ミッションが

脱落した際に、ハブとミッションとの距離が遠くなってしまうものと考えられます。

ミッションマウントを交換するためには、バッテリーケース周りの部品を取り外さなければなりません。

バッテリケースを外すと、ミッションマウントが見えてきます。なんと折れたボルトの頭

が、ミッションマウントの上に転がっています。ミッションマウントブラケットには折れたボルトの先端が残っていますので、ミッションマウントとマウントボルトに加えて、ミッションマウントブラケットも新しいものと交換しました。

最後に、抜けた分のミッションオイルを補充して、作業完了です。

ステップカーサービス（栃木県下都賀郡）

整備事例#012 Mercedes Benz W204

リアのドアロックが左右共に作動しない!?

先日、メルセデスCクラス（W204）で「リアドアのドアロックが左右共に作動しない」という症状で入庫。テスターで診断してみると故障メモリの入力は無いものの、リアドアのコントロールユニット内のドアロックの実測値では左右共に「メカニカルエラー」という表示が出ていたので、

まずはリアドアを確認。コントロールユニットへの電源電圧を点検してみましたが問題は無いため「コントロールユニットの不具合」かと判断。しかし、左右同時になるものなのかとの疑問があり、どちらか片側を交換し変化があるか確認したく、同じ品番の中古部品を取り寄せて交換。しかし交換後も変化なし。調べ直してみると、なんと「リアドアコントロールユニット」と「リアドアロック」が接続されていない事が発覚。写真をよくよく見てみると、確かにドアロックへ行く配線が無い!

実はこの車両、製造開始初期から1年くらいの間だけ、違うコントロールユニットがリアのドアロックを制御している事が判明。配線図を見ても、なかなか理解出来ません（汗）。そして、たどり着いたコントロールユニットが「フロントSAMコントロールユニット」です。

こうして、このユニットとリアのドアロックが、つながっている事を確認しました。この後、フロントSAMコントロールユニットのソフトウエアが古いバージョンになっていたため、最新バージョンにアップデート。無事にリアのドアロックが正常に作動するようになりました。

今回は解決までに時間がかかってしまいました（泣）。年式によって、システムが違うという基本的な知識を忘れずに、今後も整備に取り組みたいと思います。

株式会社田中自動車（東京都江戸川区）

古き良き名車を愛る

WE LOVE VINTAGE CAR ! #008

Mercedes-Benz W126

過去7回、決して忘れていた訳ではないが何故か取り上げてこなかったメルセデス・ベンツが満を辞して登場だ。今回取り上げるのは、これぞ“ベンツ”と呼べる2代目Sクラス「W126」である。JISPA加盟工場「玉野自動車（神奈川県横浜市）」のお客様に1994年から実に28年間もの間W126に乗り続ける方がいるとの情報を得たので早速取材を打診。快諾を頂けたので今回のテーマはこれで決まりだ。

1979年9月にフランクフルト国際モーターショーにて初公開され、1991年までの12年間製造・販売されたW126は、全世界で818,063台販売された歴代Sクラスの中で最も販売台数の多いモデルである。そして、同車の特徴を見ていくと当時の時代背景が浮かび上がってくる。いわゆるオイルショック下で開発が進んだW126は、省エネルギーと環境保護を念頭に置き開発された。それにより、空気抵抗を表すCd値は0.36と当時としては画期的な低さを実現、また同時にボディ骨格には頑強な高張力鋼板とスチール材を組み合わせ耐久性を確保しながら、バンパーやサイドパネルにはポリウレタン樹脂を採用し車両の軽量化がされている。

今回取材にご協力頂いたW126オーナーは、1994年にそのデザイン性に惹かれ3年落ちのW126（3L直6エンジン搭載の300SE）を購入、現在まで28年間メンテナンスをしながら大切に乗り続けている。W126の魅力について伺うと「もう手足のようなものですし、日常過ぎて乗っていて楽しいという感覚もない。地方に行った時などレンタカーで新しい車に乗ることもあるが、便利な機能だと感動することはあっても、乗り換えたいと思ったことはない。根本のフィーリング部分では劣ることがないですから」と、家族やペットのような存在を超越し、身体の一部であるような感覚に近いと話してくれた。

同氏の輸入車ライフはさらに10年以上遡り、80年代初頭に知り合いを通じて「W108の280SE」を購入したところから始まった。初めて乗った輸入車は「路面の感覚が伝わってきて、思ったように動く」と、（いきなり最高峰のSクラスなのだから当然ではあるが）それまで乗っていた国産車の乗り心地と格段に違ったことを感じたという。もちろん輸入車の大変さも、例に漏れず体験をしており「ベンツに乗る最大の醍醐味は目的地に無事に着くこと」と笑って話すほど大変な思いもしたという。一方で長年輸入車に乗り続ける経験をもとに「慣れない人が故障というのは消耗部品が寿命を迎えた場合が殆どです」と、国産車と輸入車の設計思想の違いが原因であることにも言及された。現に同氏のW126は28年間で「エンジンの補器類は二順、三順しているし、他の部品もかなり交換しています」と語るほど部品交換は行なっているが、廃車や乗り換えを検討するほどの大きなトラブルは一度もないという。

28年間W126に乗り続けるオーナーの大出氏

同氏と玉野自動車の付き合いは2009年からで、それまではW108の前オーナーの紹介で長野県（W108購入時の居住地）の整備工場に整備を依頼していたが、輸入車に精通したメカニックの退職に伴い、現居住地の近くにある玉野自動車に依頼するようになった。玉野自動車については、普段から工場の前を通るたびに“いつも面白い車が入っている”と気になっていたそうだ。そんな同氏だが、過去に一度だけ別の工場で車検を行ったことがあるという。横浜に居住地を移し「車検なら長野まで持っていかなくても…」との考えからだった。詳細は割愛するがその時の経験から「ヘタな整備工場に預けると直しているのか壊しているのか分からない時がある」と、輸入車に乗るにあたり、愛車を安心して預けられる整備工場の存在は凄く重要だと話す。

玉野自動車と出会い13年、両者の関係は良好なようだ。今回の取材も「玉野自動車のお願いなら」と普段は断っている取材に快諾を頂いた。もはや身体の一部である感覚の愛車を愛車を預かる“カードクター”として、JISPA加盟工場も益々の技術研鑽が必要であると改めて感じるお話を伺えた。

直6エンジンに強いこだわりがあり300SEを選択

メーターは30万キロを記録

内装にもこだわりがありカセットデッキを搭載

〈取材協力:JISPA正会員〉

有限会社玉野自動車

神奈川県横浜市神奈川区西寺尾2-25-18
営業時間:9:00～17:45(第2･4土曜と祝日は定休日)
電話番号:045-432-8073

神奈川県横浜市の整備工場。ボッシュカーサービス認定工場であり、JISPA代表理事が社長を務める。

JISPA会員工場 ｜訪｜問｜記｜

株式会社大平自動車

〈SHOP DATA〉
株式会社大平自動車
秋田県能代市浅内字出戸谷地 35-2

秋田自動車道の能代南ICから車で1分、ダイハツの看板が目印

輸入車ディーラーがない街で輸入車の「町医者」として

今回紹介する株式会社大平自動車は、秋田県能代市で昭和55年3月に創業した自動車販売から整備、修理、保険までトータルに手がける自動車整備会社だ。能代市は、秋田県北西部に位置する人口5万人弱の、「バスケの街づくり」事業を推進しスポーツを通して街の活性化を目指す街である。能代市のある秋田県は、東西70km、南北170kmの全国で6番目に広い県でありながら、輸入車ディーラーは秋田市に集中しており、秋田市から遠い街で輸入車に乗るユーザーは1時間以上かけて整備や修理に行くことが常態化していた。さらに一部のディーラーでは、古いクルマを見てもらえない場合もあり、文字通り“整備難民”となっているのが実情だという。

そんな中、同社が輸入車整備を始めたのは約5年前、創業者・大山正氏の御子息である大山記人氏が自身の乗っていたBMW Z3を工場に停めていたところ「BMWも整備してもらえるの?」と、お客様に声を掛けられたのがきっかけだったという。その後は、輸入車が別の輸入車を呼ぶ状態で、同じように輸入車が入庫しているのを見て声が掛かったり、他のお客様からの口コミで輸入車の入庫が増えていった。この状況を目の当たりにした記人氏は、多くの輸入車ユーザーが整備、修理できる工場を探しているのだと感じ、本格的に輸入車整備に着手することになったという。輸入車整備を始めた当時は何もかもが手探り状態で、独学でインターネットなどを駆使しながら情報を入手し対応していたと当時を振り返る。そんな時に見つけたのが、同じように日本車を整備している「街の整備工場」で併せて輸入車を整備する独立系整備工場の全国ネットワークJISPAである。加盟は2020年5月のことだった。記人氏はJISPAのアドバイザー制度を活用することで「解決の糸口になる」とベテラン整備士の経験に期待を寄せる。輸入車整備を始めてわずか5年余り、一台一台確実に丁寧に作業を行うことでリターンはゼロ、月間平均10～15台の整備・修理をこなすまでに成長を遂げた。近隣の整備工場から輸入車整備に関する相談もくるようになり、これまでとみられ方が変化したことが嬉しいと話す。また2年前に、輸入車整備用に新たな作業場を新設、今後はセキュリティ関連などディーラーでしか出来ないギリギリまでやれるようになりたいと、さらなる成長を目指している。

大山記人取締役

自動車は機械である以上、現象には必ず原因があると考える同氏は、輸入車整備を行うには、電子制御化されたシステムを診断するための設備と、診断結果から故障箇所を読み解くための知識（技術）が不可欠だと話す。大平自動車には、他の整備工場で直らなかったクルマが助けを求めてくることもあるが、中には見当違いの修理をされているケースもあるという。つまりはしっかりと診断をせずに想像で修理をしてしまっているということだ。このような工場が多いことで、きちんとした診断には料金が発生することの理解が進まないと業界の在り方に警鐘を鳴らす。

同氏は「日々進化を続ける自動車の修理を行うためには日々勉強が欠かせない。学ばなければいけないことはひょっとすると医者よりも多いかもしれない。だからこそ、自動車整備士という職業がもっと評価されるようになって欲しいと」と話す。

本社から数百メートルの場所に立つ輸入車整備拠点。壁面には大きなJISPAのサイン

取材時に入庫していたMINI COOPER

各種診断機を駆使して故障診断を行う

オシロスコープを導入したことで診断の幅が広がったと話す

気になる自動車業界の先を詠む

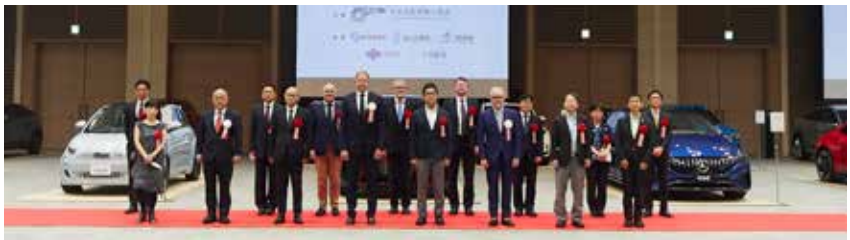
自動車業界のNEWSな話題

Automotive industry News

テーマ① ▸ 輸入EVが大阪に集合　JAIA 輸入電動車普及促進イベント in 大阪

2022年6月30日、日本自動車輸入組合（JAIA）は、グランフロント大阪 コングレコンベンションセンターにて「JAIA 輸入電動車（電動車：EV、PHEV、FCV、HV）普及促進イベント in 大阪」を開催した。会場には多くの関係者や記者が訪れ、自動車産業におけるカーボンニュートラルへの取り組みに対する関心の大きさを感じる。

近年世界規模でカーボンニュートラルの取り組みが広がりを見せる中、日本国内においても昨年の施政方針演説で「2035年までに、乗用車新車販売で電動車100%を実現」の方針が名言されるなど、電動車への流れが加速しつつある。こうした背景を受けて、JAIAは2021年4月より輸入電動車普及促進プロジェクトを実施。電動車が“当たり前”になっていく現在、輸入電動車ならではの豊富なラインナップの展示・体験を提供することでさらなる普及促進を目指す。



JAIAは輸入電動車の認知向上の取組みとして昨年度に「輸入電動車普及イベント（6月）」と「輸入電動車試乗会（11月）」を開催した。そして今回、大阪での初開催に至った訳であるが、関西エリアは登録車に占める外国メーカー車のシェアが高い都道府県ランキングTOP6のうち4府県（兵庫、大阪、奈良、京都）を占める重要なエリアであり、本イベントを通じ関西エリアにおける輸入電動車の認知向上を図ることが目的だという。

充電設備の普及や整備・修理網の構築など、まだまだ課題も多いが、国境を超え自動車業界が一丸となり世界規模の環境問題に向き合っていって貰いたい。

テーマ② ▸ 新たな販売戦略で日本再上陸　「ヒョンデ」のアフターサービスは？

韓国の自動車メーカーであるヒョンデ（旧呼称：ヒュンダイ）が、2022年に日本の乗用車市場へ再上陸を果たした。まずは、電気自動車の「アイオニック5」と水素自動車の「ネッソ」の2車種について、2022年5月から受注受付が開始され、同年7月からデリバリーが始まっている。再上陸にあたりヒョンデは、オンラインサイトによるメーカー直販に専念するという、全国にディーラー網を構える従来の販売方法とは一線を画す戦略を採用した。これはご存じの通り世界最大のEVメーカー“テスラ”の成功モデルを踏襲している。

一方で気になるアフターサービスに関しては、同社の直営拠点（ヒョンデカスタマーエクスペリエンスセンター横浜）を整備面のハブとして、全国各地に有力な協力整備工場のネットワークを構築する方針である。協力整備工場に対しては、技術レベルが均一なサービス提供ができるよう、メーカーによる定期的なトレーニングと最新技術の情報共有を行っているという。

なお現在、ヒョンデの協力整備工場にJISPA加盟工場も数社（埼玉県：株式会社アクセス、東京都：協和自動車、大阪府：ミツイオートサービス、福岡県：朝日自動車）名を連ねている（2022年8月時点）。

進化をしているのは自動車だけでなく、自動車の販売方法もまた時代の流れに合わせて変化していることが分かる。ディーラーの在り方が変われば、当然アフターサービスを行う我々整備事業者も変化をせざるを得ない。時代の流れに取り残されないよう、JISPAとしても情報には注視をして対応していきたい。

ネッソ（水素自動車）

アイオニック５（電気自動車）

（発行所）一般社団法人 日本輸入車整備推進協会 〒142-0064 東京都品川区旗の台2-10-15 tel.03-6421-6081 （編集制作）株式会社ジェイシーレゾナンス 〒108-0072 東京都港区白金1丁目12-2 2F tel.03-5422-9446

愛車と長くつきあう輸入車オーナーのための注意点

意外と知らない？ クルマの豆知識

エンジンオイルの話

その重要性を表現するために、しばしば人間の血液に例えられるエンジンオイル。その役割は、①潤滑作用、②密封作用、③冷却作用、④緩衝作用、⑤防錆作用、⑥清浄作用、と多岐に渡る。オイル交換は、エンジンの調子を左右する重要な要素であり、国産車であろうが輸入車であろうが定期的なメンテナンスとして必ずオイル交換が必要だ。一口にエンジンオイルと言えど非常に奥が深く、自分の愛車に最適なオイルを見つけるには知っておくべきことが幾つかある。

まずは「粘度」についてだ。エンジンオイルは、車種や地域の気候、走行状況などによって適正粘度が異なる。粘度は「10W-40」「0W-20」のように数字で表され、Wの前にある数字が低温時の粘度指数で、ハイフンに続く数字が高温時の粘度指数だ。低温時の粘度指数が低いほど始動性が良く燃費が良くなり、高温時の粘度指数が高いほど保護性能が高くなると言われている。

次に、エンジンオイルを構成する主要な成分「ベースオイル」についてだ。エンジンオイルは、このベースオイルに各種の添加剤を組み合わせることで作られている。API（アメリカ石油協会）は、硫黄分、飽和炭化水素分、粘度指数の数値によってベースオイルを5段階のグループ（I～V）に分類。グループの数字が大きくなるにつれて品質が上がっていく。表記は各メーカーによって異なるが、一般的には「鉱物油／ミネラル（グループI、IIが主原料）」「部分合成油（グループIIとIIIの混合、もしくはIIIが主原料）」「100%合成油（グループIII以上が主原料）」3種類の

表記が使われている。

最後に「交換時期」について。輸入車オーナーにとっては一番大事な部分かもしれない。なぜなら輸入車で推奨されている交換サイクルは、あくまでも自国（外国）での走行環境を基準に設定されたもので、走行距離が短く、ストップアンドゴーを繰り返す日本の都市部での環境を考慮したものではない。つまり、生活環境や交通事情によって最適が変わるので、唯一の最適解がないというのが実情だ。重要なのは愛車の定期的なメンテナンスと信頼できる整備工場であることをお伝えして、今回の豆知識を締め括りたい。

〈 JISPA 会員紹介 〉

JISPAは、輸入車の整備を行える“国産車も整備する街の整備工場ネットワーク”創設を目指しております。
JISPAの理念に賛同した加盟店をご紹介します。

有限会社シンコーオート商会

（2021年3月 加盟）

所在地：愛媛県新居浜市東雲町１丁目1-86
ＵＲＬ：https://www.shinko-auto.com/

四国の瀬戸内海側の中北部に位置する臨海工業都市で、東予地方の中心都市の一つ、四国三大祭りの新居浜太鼓祭り、別子銅山関連の近代化産業遺産群で知られている人口約12万人の都市、愛媛県新居浜市にシンコーオート商会はある。シンコーオート商会は、車輌の販売だけでなく保険から車検までお客様のカーライフを幅広くサポートする地域密着型の企業である。

店舗の写真やホームページを見ても分かるように、輸入車色を強く打ち出している訳ではない。というのも、同社の考えは「輸入車の多い地域ではないし、それを求めているわけでもない」というのが本音だという。しかし同社のある新居浜市には輸入車ディーラーがなく、輸入車の整備や修理をするには輸入車ディーラーまで片道1時間以上かかる土地なので、自社のお客様で“輸入車に乗っている方の助けになれば”という想いでやっているという。同社の芳山社長は「全ての輸入車に対応しようとは思っていない。特別なクルマ

店舗の端々に輸入車の気配を感じた

診断機はLAUNCH製

や、難しい修理はディーラーや専門店がやればよい。でも、できる限りの修理には対応する気持ちを持っていたい」とその想いを明かしてくれた。

芳山社長は「ウチなんか全然低レベルですから」と謙遜されていたが、工場の端々から輸入車整備の気配が漏れ出ていた。国産車も整備する街の整備工場であり、輸入車整備難民を救うために輸入車整備を行う様子は、まさにJISPAの理念を体現している工場であった。

輸入車修理のベストパートナー

一般社団法人 日本輸入車整備推進協会

一般社団法人 日本輸入車整備協会（JISPA）は、国産車を整備している「街の整備工場」で、併せて輸入車を整備する独立系整備工場（Independent auto repair shop）の全国ネットワークです。
電子診断のデータに基づき、車輌の環境性能・安全性能・乗り心地を自動車メーカーの工場出荷時（新車）の状態に戻す新時代の診断整備を目指します。現在全国100社のネットワーク構築に向けて会員を募集しております。詳しくは、右記ホームページに記載の入会案内をご覧の上、事務局までお問い合せ下さい。

JISPAニュースに関する
ご意見・ご感想・ご要望などをお寄せください

http://jispa.net

JISPAニュース編集部では、今後ともコンテンツの充実に努めて参ります。皆様からの多様なご意見・ご要望を募集しております。下記メールアドレスまで、お寄せ下さい。

JISPA事務局▶jispagogo@gmail.com